

# 第32回

# うつのみやこども賞だより

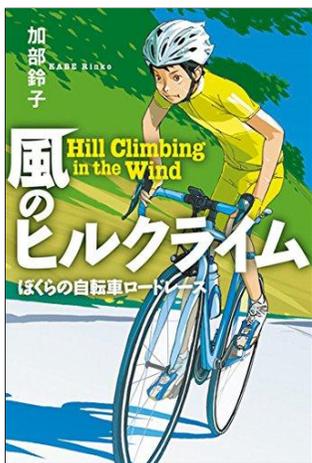
平成27年度 3回

市内5・6年生の選定委員さんたちが、月に4冊の本を読んで、年間で一番人気の高かった本に「うつのみやこども賞」を贈っています。

## 《今月選ばれた本》

### 『風のヒルクライム』

加部鈴子／著（岩崎書店）



## ～読んだ本の感想より～

- 乗っているのを表すセリフがとても気持ち良さそうでした。
- お話を読んでいると自然とその人になって、自転車に乗っている気分になれて気持ちが良かった。
- 涼太の家族への思いなど、ひとりひとりが自転車ロードレースにかけた思いがあるように、皆、なにかにかける思いがあるんだと、この本を読んで思った。
- 最初はほしいとっていないのに、お父さんに自転車をプレゼントされる涼太がかわいそうだと思うけど、読み進めるうちに、父親の背中を見せた

かったのだということが分かり感動した。

- やる気がすごく伝わってきました。
- 最後に話がつながっていたところがよかったです。1人1人の話に分けられていた所もおもしろくて、あきずに、ワクワクして読めました。

## 『いちごケーキはピアノッシモで』

西村友里／著（国土社）

- 主人公が今やりたいことは「いご！」とお父さんに言ったとき、お父さんが調べてくれたことに「ジーン」としました。いいお父さんだなと思いました。
- お父さんとお母さんのピアノッシモが家族のためだったのが感動した。
- わたしもピアノッシモがひびく人になりたいです。強さと弱さをうまく使えるといいのかなと思います。
- 香音には悪いけど、やっぱり香音のような家族がうらやましい。
- 確かに、コンクールで賞をとることも大事ですが、人の心にひびく自分らしいピアノを弾けばいいと思った。

## 『フラフラデイズ』 森川成美／著（文研出版）

- 国がちがって言葉が通じなくても心は通じる合えるんだと思いました。
- 言葉が分からないような外国の子ども達が雅のことを応援しているのがいいなと思った。
- たくさん災難なことが起こり読んでいてとてもドキドキハラハラでした。何事にも全力でやらなきゃダメなことが分かりました。
- マサのおばあちゃんがゆかいな人に見えた。
- 沖村君人とサッカーしようといったときはどんな気持ちでいったんだろうなあとしげに思いました。

## 『カッチン』 いずみたかひろ／著（小峰書店）

- 日本の昔を思いうかばせるような話だった。
- 物ごとが悪い方へすすんでいくときはドキドキした。
- カッチンの気持ちがいろいろ伝わってくるころがよかった。
- 昔のころは、今よりも不便なことがあるんだと思わせてくれる本でした。
- 思いでをうそをついてでもつくろうという3人の気持ちが分かった。ぼくも、6年になったらやってみたい。

平成27年8月2日